

# 「野生鳥獣に負けない集落づくり」 活動事例発表

～松本市 東山部地区の事例～

野生鳥獣被害対策 松本地方部



“活力と安心” 人・暮らし・自然が輝く信州

- 1 地域の概要
- 2 被害の状況
- 3 経過
- 4 被害対策
- 5 効果
- 6 今後の課題

# 地域概要

位置:

松本市の東部の  
の中山間地域

栽培品目:

水稲、そば、野  
菜、麦等



## 松本市東山部地域

# 松本管内の被害概要

## 1 被害状況(農林業)

野生鳥獣による管内の農林業被害額は、1億3千万円余に達するなど、農林家に大きな影響を与えている。

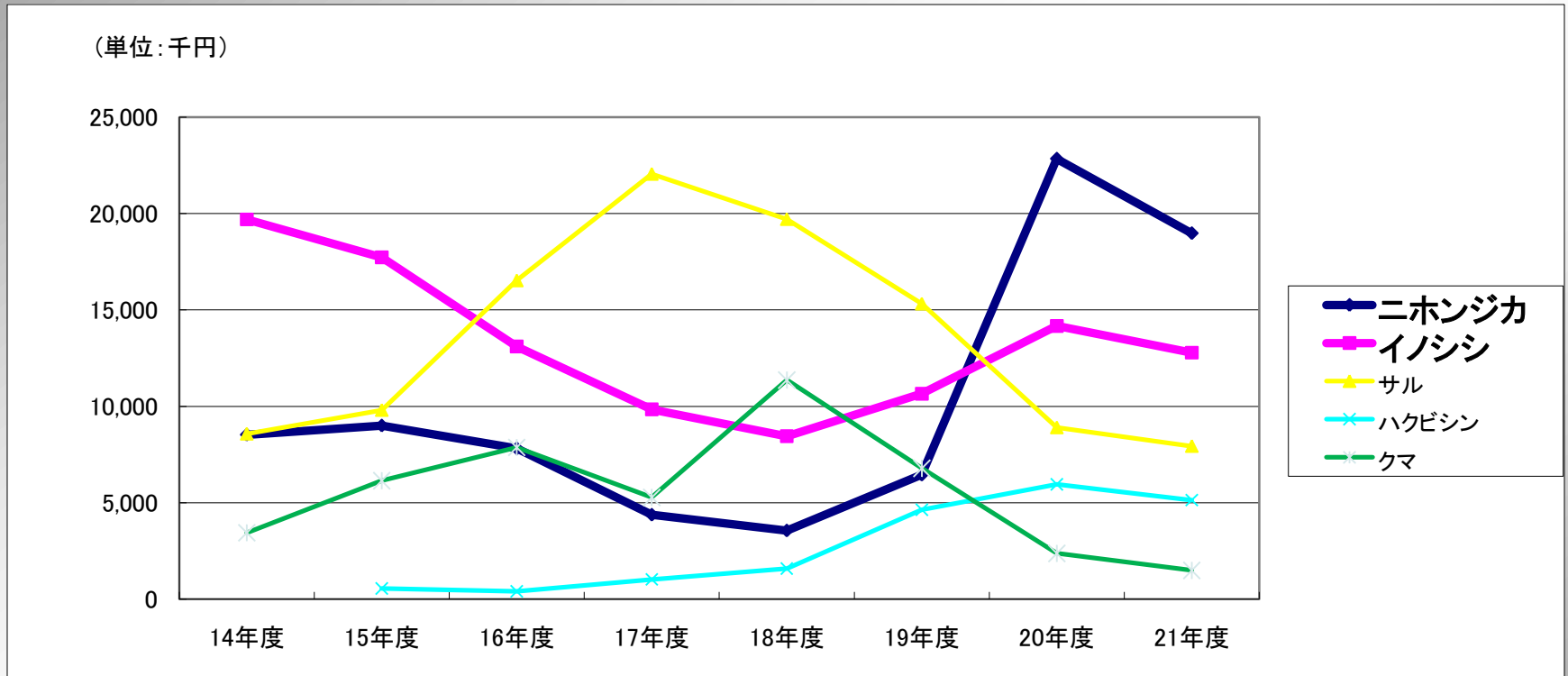
野生鳥獣の種類別にみると、獣類と鳥類の被害額の割合は約6対4であり、ニホンザル、シカ、カラス等の占める割合が大きい。最近ではシカによる被害が大幅に増加しているほか、イノシシの被害も増加している。

### ○ 種類別被害額

(単位:千円)

項目	H19年度	H20年度	H21年度	H21 構成比(%)
カモシカ	22,614	13,852	11,724	9
サル	32,480	31,377	32,422	24
<b>イノシシ</b>	<b>10,653</b>	<b>14,168</b>	<b>12,786</b>	<b>10</b>
<b>シカ</b>	<b>8,896</b>	<b>25,403</b>	<b>21,854</b>	<b>16</b>
クマ	6,787	2,375	1,494	1
その他獣類	5,039	6,815	6,242	5
獣類 計	86,469	93,990	86,522	65
カラス	34,104	25,780	19,019	14
ムクドリ	8,217	8,797	8,731	6
ヒヨドリ	9,795	7,358	6,140	5
カモ類	517	1,062	376	0
その他鳥類	8,574	8,777	13,190	10
鳥類 計	61,207	51,774	47,456	35
合計	147,676	145,764	133,978	100
対前年比率(%)	-	98.7	91.9	-

# 管内の獣類による農業被害額の推移



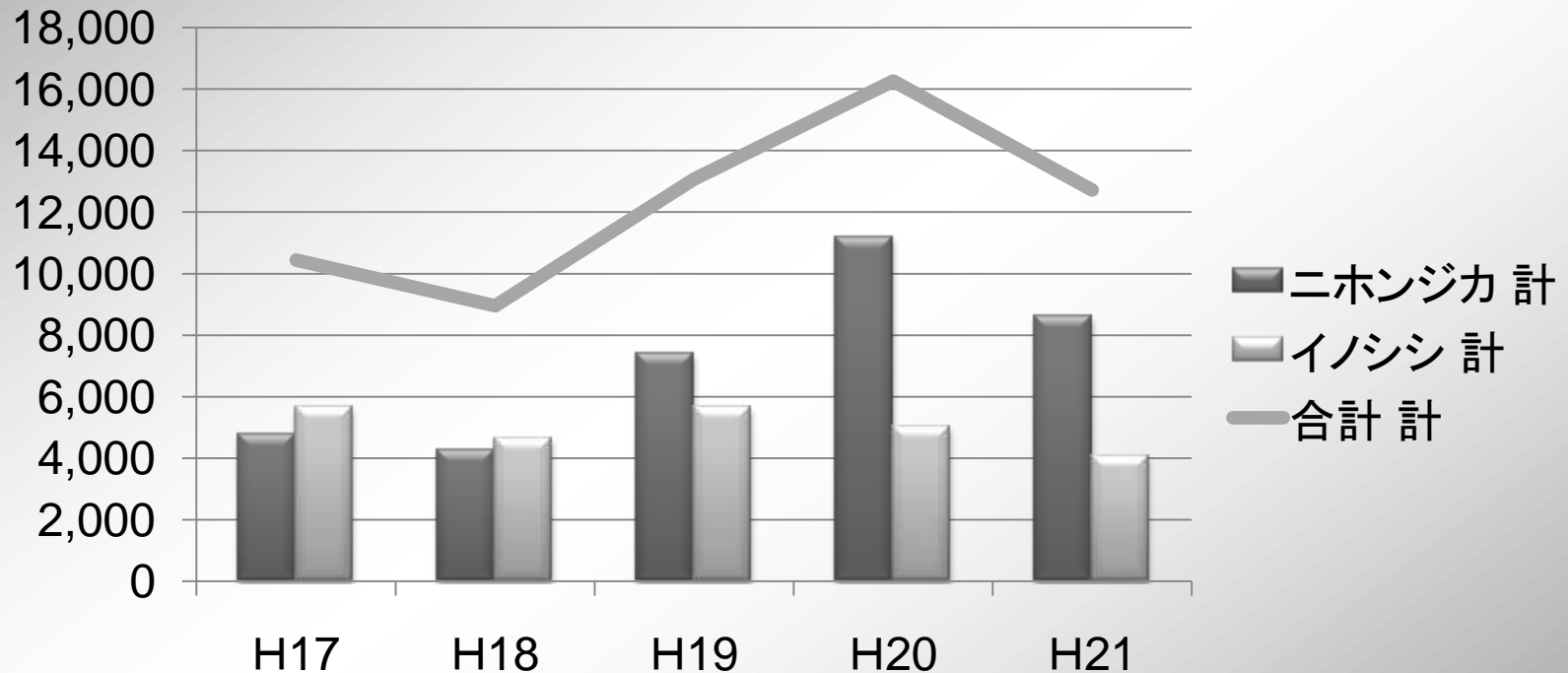
・ニホンジカの被害金額は平成20年度に前年比354%と大幅に増加したが、平成21年度は、前年度対比83%と少し落ち着いた。この原因として平成21年度の捕獲頭数が153%と増加したことが考えられる。

・イノシシ、サルは前年度対比約1割が減少している。

・近年は、クマの被害が減少し、ハクビシンの被害が増加傾向にある。

# 松本市の被害額の推移

単位：千円



ニホンジカの被害は、松本市東山地域がほぼ占める

# 事業導入までの経過

松本市東山部地域では、平成18年頃からシカ、イノシシによる農地等への被害が拡大



- ・個々の農家対応では限界がある！
- ・被害面積の拡大

H19年度 44ha

H20年度 72ha



このままでは

農業者の耕作意欲が減退  
耕作放棄地が増加

なんとかしなければ！

東山部地域全体で考えよう！

# 東山部地域全体で検討

地域の集落 8516戸

(うち農家725戸)

入山辺 内田  
里山辺 中山  
神田 大寄崎(おおつき)

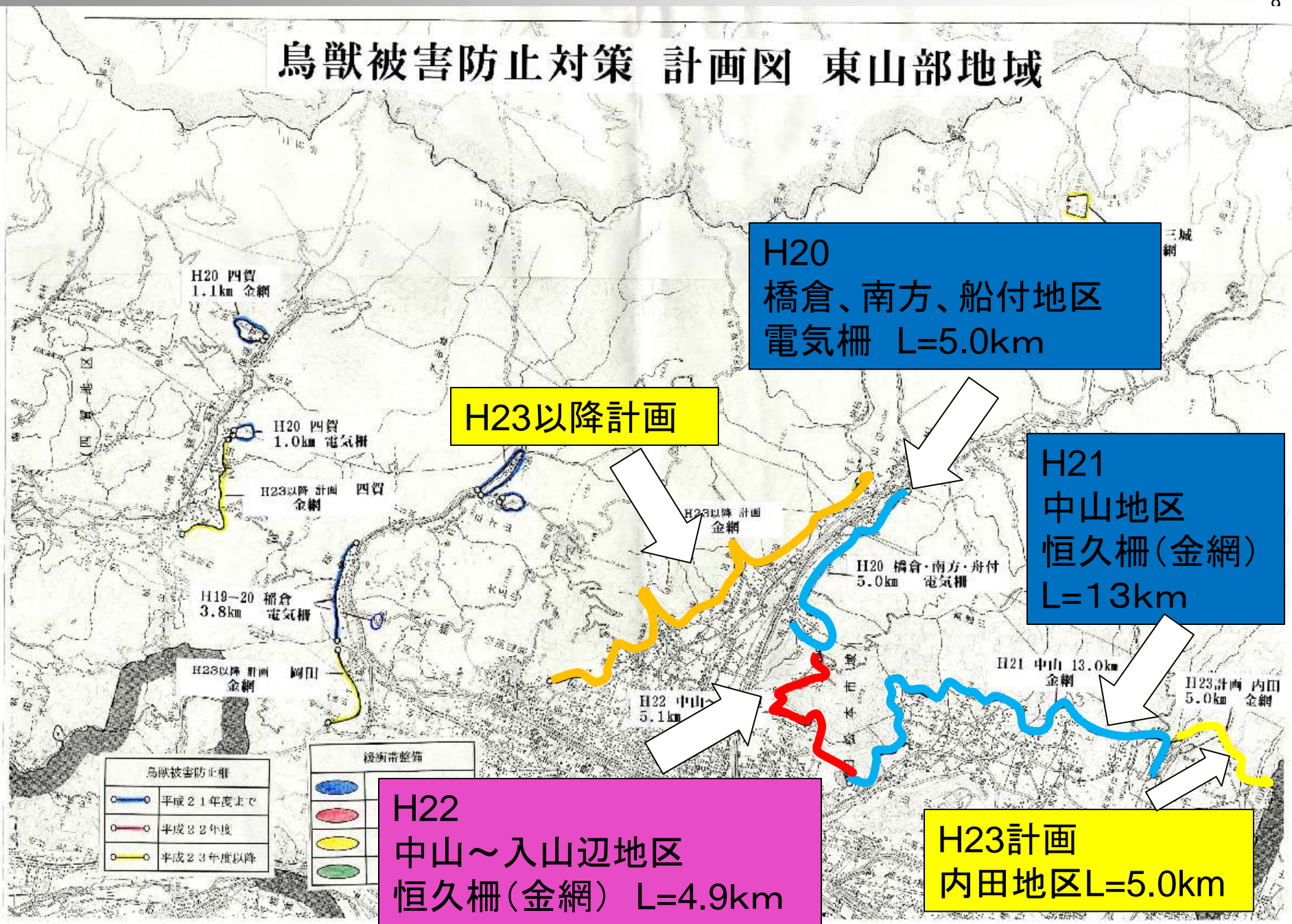
## 経過

- 以前よりニホンジカ等による被害が深刻化
- 平成19年から市単独事業による簡易ネット等による防除
- 平成21年12月「東山部地域」一帯で対策を検討
- 恒久柵(金網)の設置を決定
- 平成22年1月から随時各集落にて説明会、現地調査





# 鳥獣被害防止対策 計画図 東山部地域



**H20**  
橋倉、南方、船付地区  
電気柵 L=5.0km

**H23以降計画**

**H21**  
中山地区  
恒久柵(金網)  
L=13km

**H22**  
中山～入山辺地区  
恒久柵(金網) L=4.9km

**H23計画**  
内田地区 L=5.0km

鳥獣被害防止柵	
	平成21年度まで
	平成22年度
	平成23年度以降

線柵帯整備	
	電気柵
	金網
	金網
	金網

# 被害対策

## 中山地区（中山集落）の取組み

- 平成21年度に実施
- 主体 中山地区有害鳥獣対策協議会
- 代表者を中心として、いち早く地権者・関係者の同意を短期間に集約・実施
- 防護柵 L=13km 事業費50,000千円  
(耕作放棄地再生利用緊急対策事業)
- 設置作業は地域住民による(労務提供方式) 延べ約1900人が参加





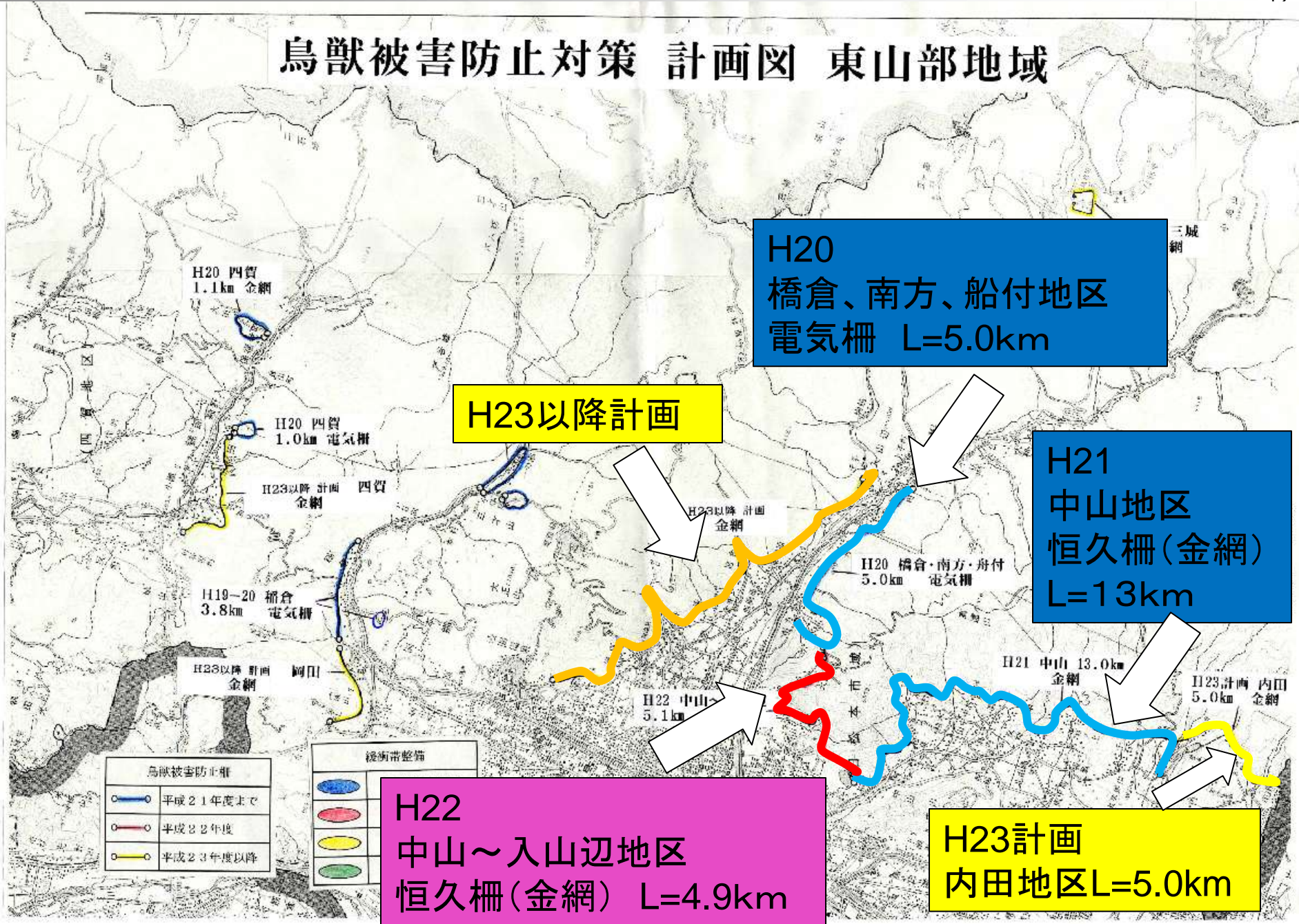
多くの住民が参加



シカの潜り込み防止のため金網下部を山側に折り曲げる



# 鳥獣被害防止対策 計画図 東山部地域



**H20**  
橋倉、南方、船付地区  
電気柵 L=5.0km

**H23以降計画**

**H21**  
中山地区  
恒久柵(金網)  
L=13km

**H22**  
中山～入山辺地区  
恒久柵(金網) L=4.9km

**H23計画**  
内田地区L=5.0km

鳥獣被害防止柵	
	平成21年度まで
	平成22年度
	平成23年度以降

線柵帯整備	
	電気柵
	金網
	金網
	金網

# 被害対策

## 中山地区～入山辺地区

(神田、大寄崎、里山辺、入山辺集落)

- 平成22年度実施
- 主体 松本市
- 昨年柵設置実施の中山住民も参加協力
- 防護柵 L=4.9km 事業費14,700千円  
(農山漁村地域整備交付金)

資材は市から、設置作業は地域住民による(労務提供方式)







市民タイムス 23. 1. 15

# 獣害被害防止 住民が結束

松本市神田の山際で進められていたシカよけの柵設置作業が、15日、ほぼ完了した。高さ2.5メートル、長さ700メートルの柵が、林内に張り巡らされた。寒く冷え込む中、住民参加で朝から連日作業が行われてきた。住民たちは田畑の作物を食う害獣の被害を軽減し、収穫を待つ間に、作業を通じて強まったお互いの絆にも良い手応えを感じていた。

(蒲田 長)

## 松本 神田で700メートルの柵完成

神田の山際にはすでにシカよけの柵が張り巡らされていたが、開闢から田畑に広がるシカやヤブシカが絶えなかった。昨年はシカと車が衝突する事故も相次ぎ、シカの出没も心配され、被害は農作物に限らない状況になっていた。

「ようやく事態を収めて、農業と非農業家の住民が協力し、市が原材料を提供して、地元で努力を傾け、設置作業を取り入れ、生



での頑丈な柵の防柵700人が繰り出し、調整に乗り出した。8日から交代で進め、つたり、支柱を立てたり

した。当初今月下旬の完了を目指していたが、地域を駆け回った作業は好天にも助けられてはなくなり、15日はほぼ完了した。対策委員の森崎敬介会長(66)は「これで安全に

生活し、耕せる。みんなのおかげだ」と喜んだ。早稲らぬ住民同士が世代を超えて協力し合う場面もあり、高麗正治神田町会長(73)は「町会の家とまりが良くなった」と笑顔を露せた。

住民参加による東山部の長大な防柵設置は、昨年度に中山地区で13ヶ所が済んでいる。本年度は入山前から中山地区にかけて4・9ヶ所が予定され、関係住民がそれぞれ町会などを単位に作業を進めている。

シカよけの柵づくりに取り組む神田の住民たち

# 鳥獣害防止柵 住民が汗

松本市の東山部 集落単位 設置始まる

農作物を食べ荒らすシカなどの田畑への侵入を防ぐ長大な柵作りが、松本市の東山部で行われている。市が原材料を支給し、住民が労力を提供する協働事業で、本年度は神田などで長さ計5・1キロの整備が計画されており、今月に入って集落ごとに設置作業が始まった。26日に行われた里山辺の林集落では、約50人の住民が大切に育てた作物を守るべく、実際に金網のフェンスを運搬した。



住民自らがシカよけの柵作りに動んだ(松本市里山辺)

(蒲田 長)

林集落には昨年度に柵を設置した中山地区の住民も駆けつけ、効果的な方法を助言した。この日は長さ1500ほどを整え、2・5メートル間隔で金属製の支柱を打ち込み、高さ2メートルの金網を張った。林の作業に携わった市農業委員の横山政一さん(66)は「特に異論もなかった。東山部では近年、シカ、みんながまとまって



に」と願いながら、「地域の絆を深めるという二次的な効果も生まれるのでは」と話していた。

市民タイムス 22. 12. 26

# 被害対策

## 生息環境対策

H22年度実施

- 緩衝帯整備

中山地区 約2ha

(造林事業、鳥獣被害防止総合支援事業)



# 被害対策

# 捕獲対策

## H22年度実施

- 捕獲資材(くくりワナ)の購入
- 捕獲免許の取得に向けた事前講習(9名がワナ免許取得)
- 捕獲の技術講習会(35名参加)



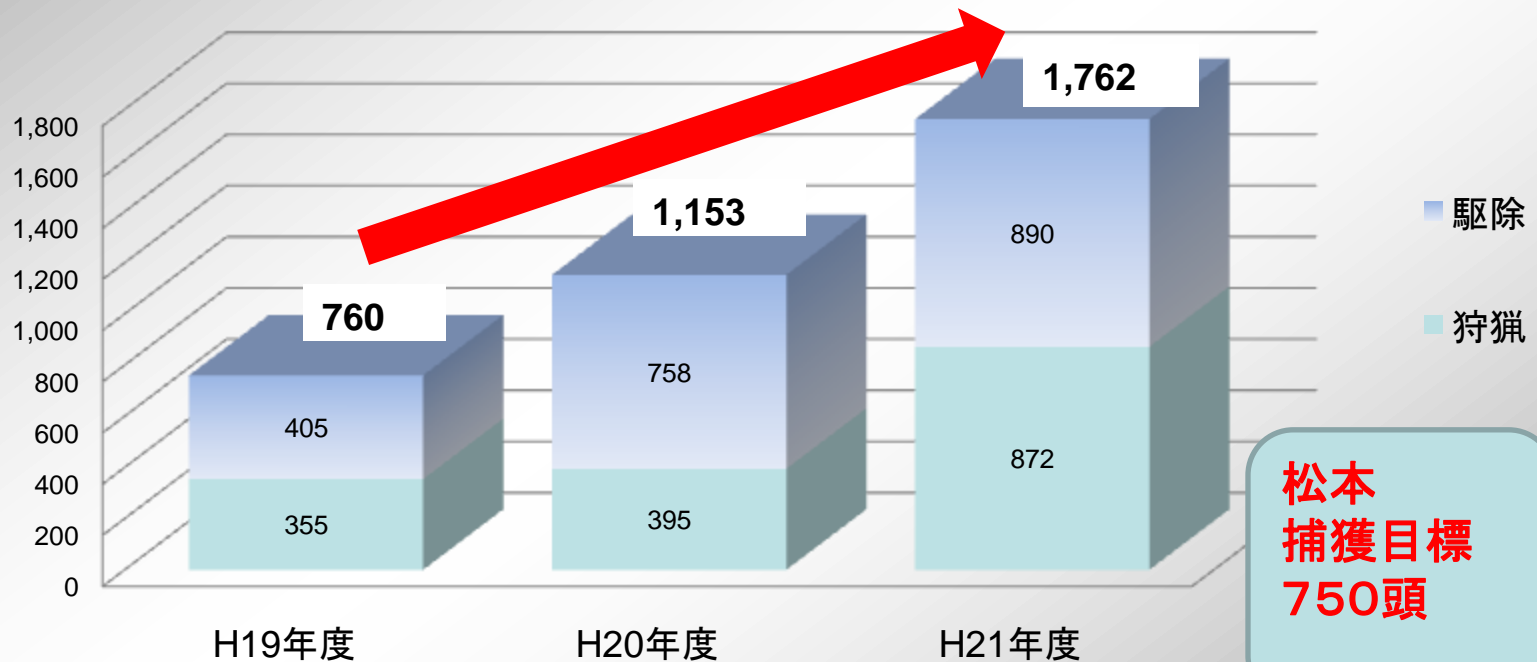
# 捕獲対策 種類別捕獲数の状況

(単位:頭、羽)

項目	H19年度			H20年度			H21年度		
	狩猟	駆除	計	狩猟	駆除	計	狩猟	駆除	計
カモシカ	0	41	41	0	37	37	0	31	31
サル	0	254	254	0	205	205	0	238	238
<b>イノシシ</b>	<b>431</b>	<b>154</b>	<b>585</b>	<b>345</b>	<b>264</b>	<b>609</b>	<b>392</b>	<b>285</b>	<b>677</b>
<b>シカ</b>	<b>355</b>	<b>405</b>	<b>760</b>	<b>395</b>	<b>758</b>	<b>1,153</b>	<b>872</b>	<b>890</b>	<b>1,762</b>
クマ	7	24	31	5	7	12	6	11	17
その他獣類	244	164	408	266	210	476	181	274	455
獣類 計	1,037	1,042	2,079	1,011	1,481	2,492	1,451	1,729	3,180
スズメ・カラス・キジバト	6,299	4,087	10,386	4,579	5,185	9,764	4,980	5,212	10,192
ムクドリ	268	2,521	2,789	395	1,628	2,023	447	1,634	2,081
ヒヨドリ	1,023	694	1,717	918	615	1,533	1,013	648	1,661
カモ類	575	255	830	452	184	636	429	198	627
その他鳥類	712	1,427	2,139	730	1,221	1,951	681	84	765
鳥類 計	8,877	8,984	17,861	7,074	8,833	15,907	7,550	7,776	15,326
合計	9,914	10,026	19,940	8,085	10,314	18,399	9,001	9,505	18,506

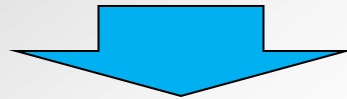
# 管内の加害獣 捕獲頭数の加速化

ニホンジカ捕獲頭数（単位：頭）

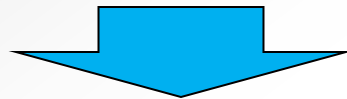


# 事業実施効果

- 平成21・22年度 防止柵設置(17.9km)



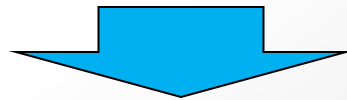
- ニホンジカ、イノシシの被害がかなり減少



- 耕作放棄地の再生
- そば、ナタネ栽培面積の拡大
- 「地域の農業振興」

# ポイント

- 各地区で分担し、防止柵建設委員会の立ち上げ（核となる人材）
- ルート選定、資材検討、地域説明、同意の取り付け、柵設置



地域一丸（農家・非農家）となって実施

# 農家の方からのコメント

- 安心して耕作が可能となった
- 耕作放棄地が再生できた
- 環境が変化し交通事故（シカ飛び出し）減少
- 野草の復活

# 今後の課題

- 防止柵の起終点（未設置箇所）からの侵入（隣接集落との調整）
- 柵の維持管理
- 柵の内側に残る個体捕獲
- 補助事業の採択状況
- ジビエの有効活用

# ジビエ振興対策

- 有害鳥獣捕獲等によるシカ肉の活用
- H23年度 加工施設の導入を検討中  
松本市 1カ所



終わり

御静聴ありがとうございました